

# 学習材活用の 理論と方法

-ShulmanのPCK研究が示唆するもの-

2011/11/04/(金)  
M116196 松原直哉

# 発表構成

- I RQの設定
- II ShulmanのPCK研究の概要
- III PCK研究から学習材の活用への示唆

RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

# I RQの設定

## 本発表のRQ

学習材の活用において、ShulmanのPCK研究からどのような示唆を得ることができるか？

- ShulmanのPCK研究とは何か？
- PCK研究が学習材に示唆するものは何か？

RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

## Ⅱ ShulmanのPCK研究の概要

(1) PCKとはどのようなものか？

(2) PCKはどのように形成されるか？

(3) PCKの特質とは？

RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

## (1) PCKとはどのようなものか？

PCK (pedagogical content knowledge)

= Shulmanが提唱した、教師の

「知識基礎 (knowledge base)」の重要な一部



Shulmanは、教師が授業に臨んで複合的に用いる知識のベースを想定し、そのベースを構成する7つのカテゴリーを提案



RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

# 「知識基礎」の構成要素

内容に関する知識 (content knowledge)	教材を伝達するときに現れる、教室を運営し組織する広く一般的な原則と方略に特に言及
一般的な教育方法に関する知識 (general pedagogical knowledge)	教師にとって「交換の道具」として役に立つ教材とプログラムについての特定の理解
カリキュラムに関する知識 (curriculum knowledge)	
PCK (pedagogical content knowledge)	教師に特有な領域であり、専門職的な理解の特別な形。「内容に関する知識」と「教育方法に関する知識」の「特別な混合物」
学習者とその特性に関する知識 (knowledge of learners and their characteristics)	グループもしくは教室での学習、学区の政策や財政から、コミュニティと文化の特性まで幅広い
教育の文脈に関する知識 (knowledge of educational contexts)	
教育の目的、目標、価値、そしてそれらの哲学的歴史的基盤に関する知識 (knowledge of educational ends, purpose, and values, and their philosophical and historical grounds)	

参考文献①より引用し、作成

RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

## Shulmanの「知識基礎」

授業に直接関わるさまざまな知識

教育や人間形成についての哲学的・歴史的知識

授業や学校を取り巻く諸要素についての知識



Shulmanは、  
教師に広範で包括的な知識を求めている

RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

## ShulmanのPCKとは何か？

「教育内容」をその教授可能性からみて最も適切に具体化したものであり、「学習者の誤った先行概念」(学習者についての理解)を組み換えるのに有効な、また最も分かりやすい教授法であり、具体的には、「類推、表現、例、説明、実演」として学習者に提示される

「教育内容」、「学習者についての理解」、  
「教授法」の複合的な知識

Shulmanは、PCKこそが、内容の専門家の理解と教育者の理解とを区別するカテゴリーと考えている

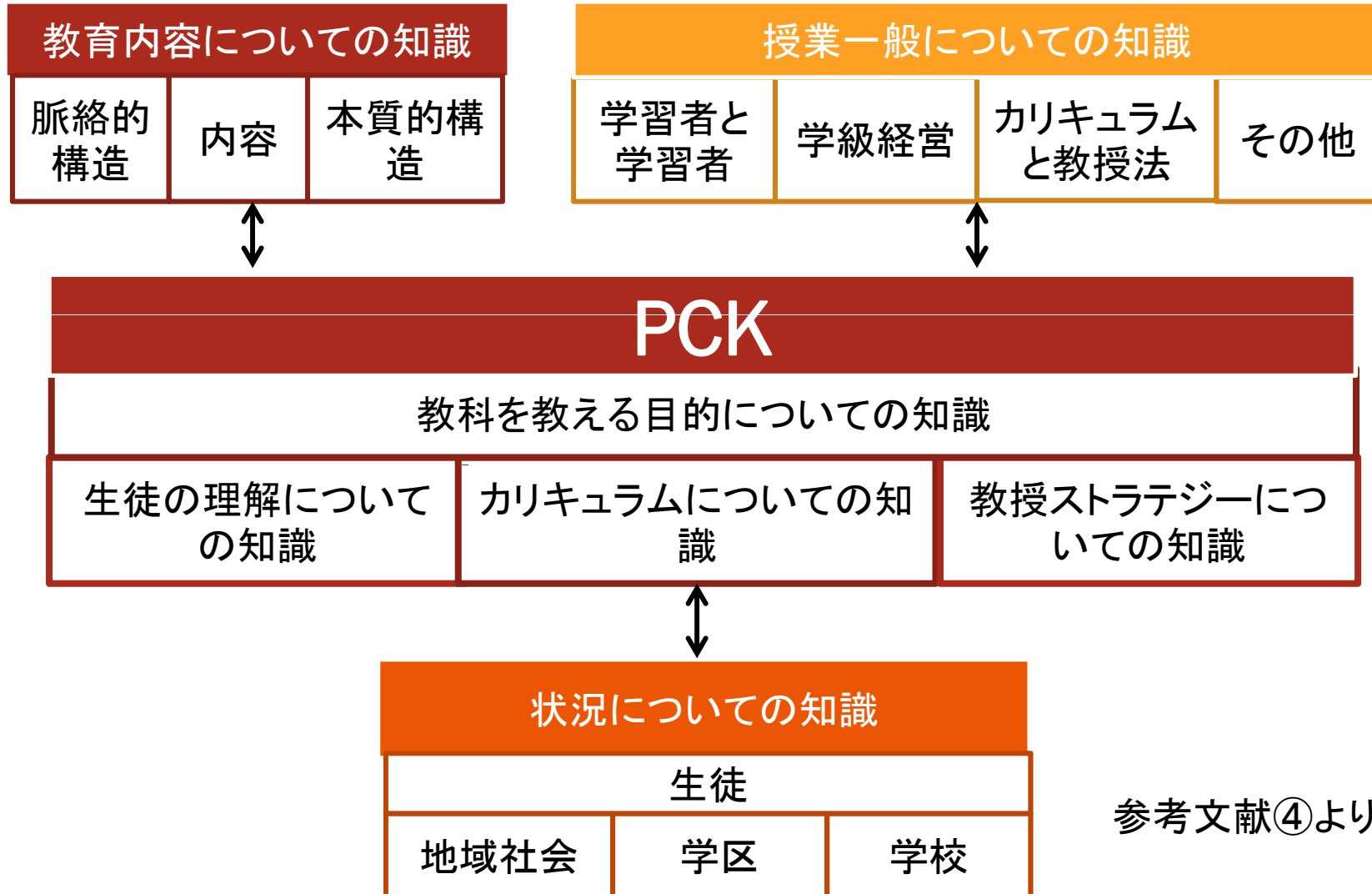


RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

# Grossmanの教師の知識モデル



参考文献④より引用

RQの設定

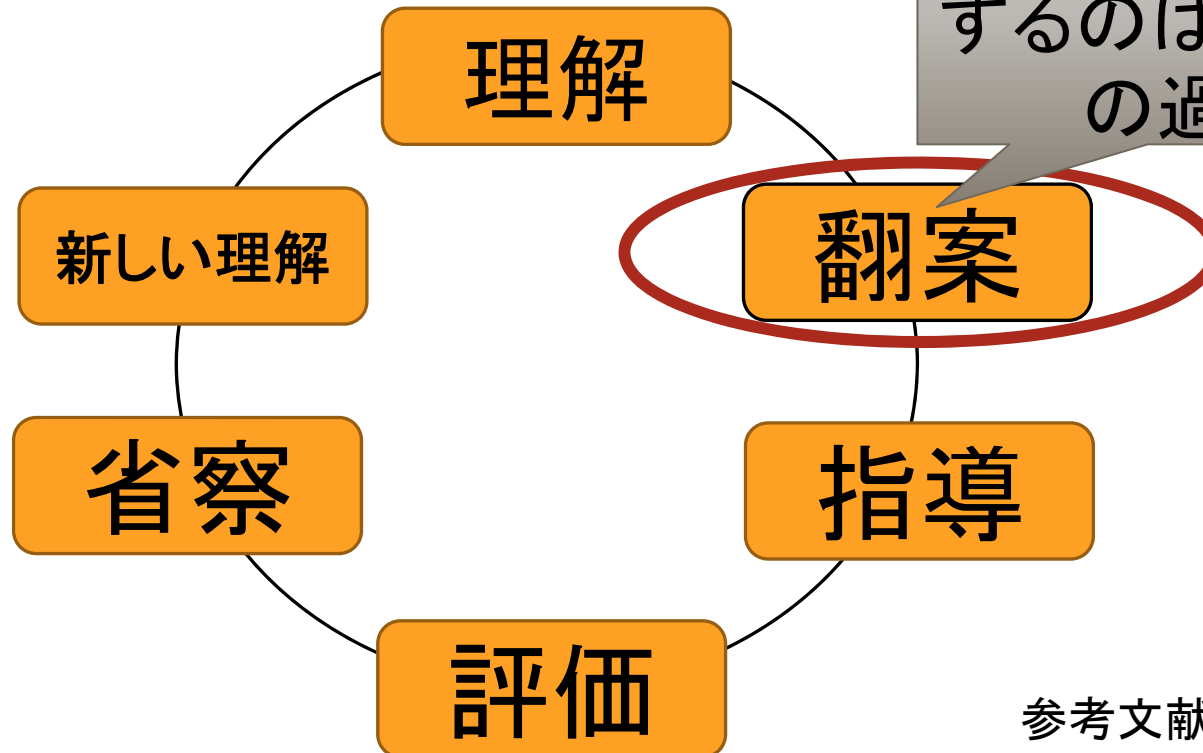
Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

## (2) PCKはどのように形成されるか？

「教育的(教授学的)推論と行為」モデル  
→ 教師の思考・学習過程を通して形成される

PCKが特に表出  
するのは「翻案」  
の過程



参考文献①より引用

RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

# 「教育的推論と行為」

教育的推論	理解	教育の目標及び教育内容についての理解(批判的な検討が望ましい)
	翻案	①教材の準備:教材の構造化・分節化(既成の教材の批判的検討が必要) ②表現:教育内容を学習者が理解できるように表現を改める(類推や比喻等) ③選択:教授法とモデルから教授学的な選択(講義、グループ学習、作業等) ④適合:学習者の特性(能力、言語、誤った先行概念等)に教材を合致させる ⑤仕立て:特定のクラスの生徒及びグループに教材を合わせる
行為	指導	実際の(指導)授業場面であり、観察可能な教授行為がみられる
	評価	学習者の理解度及び教師自身の教授行為の評価(PCKの活用)
	省察	授業を振り返って、目標達成の観点から出来事や成果等について検討
新しい理解	推論と経験が加わった新しい包括的理解	

RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

## 「教育的推論と行為」における「翻案」とPCK

教師は理解した教育内容をそのままではなく、学習者が理解できるように「**翻案**」しなければならない  
→ 教師は、自身が理解している教育内容と学習者の思考過程との間を往復してPCKを形成する

「翻案」こそが、教職に独特の**教育的な思考過程**であると位置づけられる

各局面において「内容に関する知識」と「教育方法に関する知識」を分離していない  
→ PCKは独自の領域形成であり、知識は総体として学習過程の総体を支えている

RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

## (3) PCKの特質とは

PCK…教育内容や教授法、生徒についての理解などの多様な知識による複合的な知識であること

PCKの形成…教育的推論と行為の過程を通して形成  
→ PCKを活用するだけでなく、教育的推論と行為の過程において新たなPCKを形成していくことが重要

RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

### Ⅲ PCK研究から学習材の活用への示唆

(1) 学習材の活用には、教師のPCKが大きく影響する

(2) 学習材の活用における教師の「翻案」の重要性

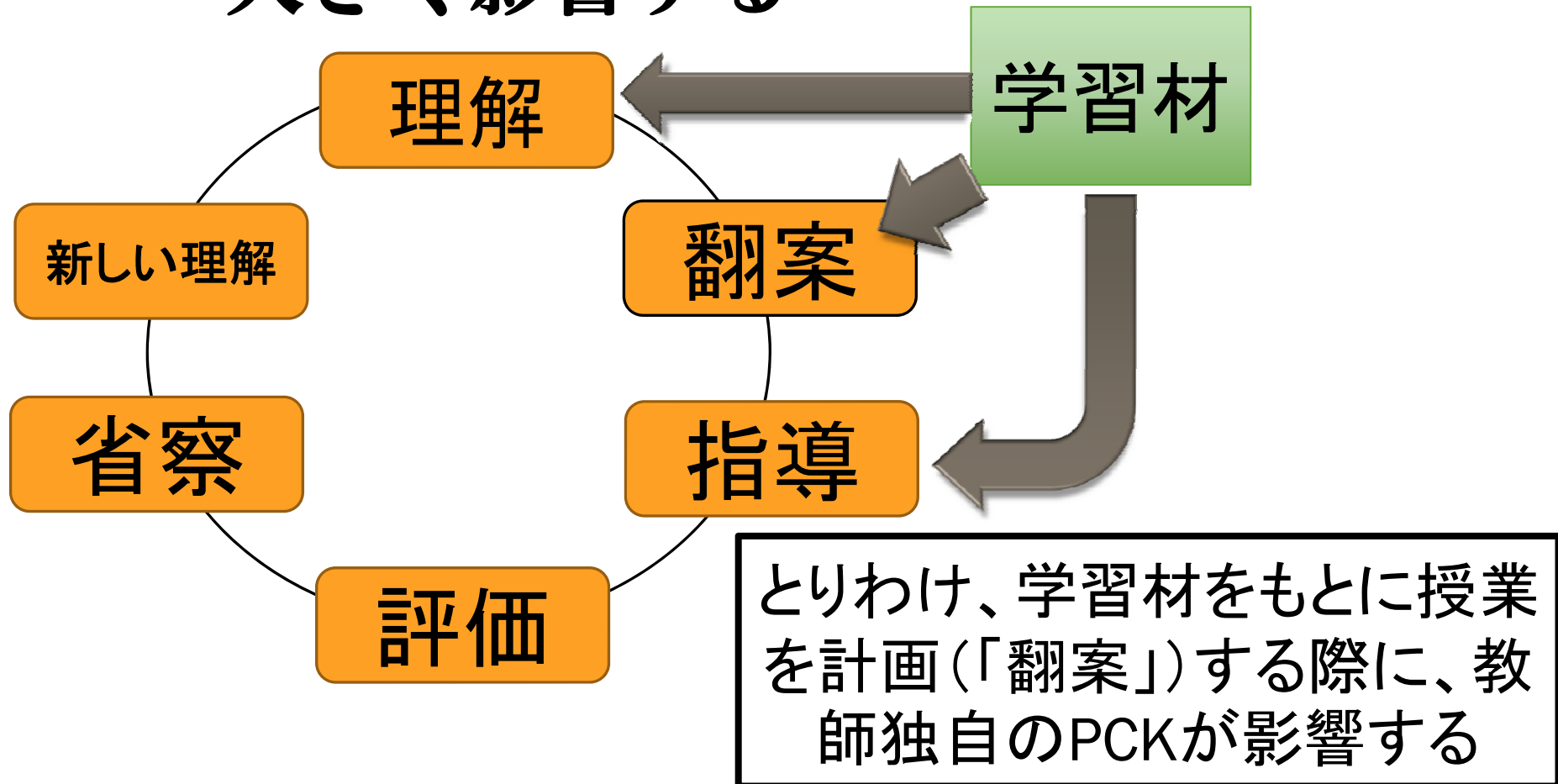


RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

# (1) 学習材の活用には、教師のPCKが大きく影響する



RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

## (1) 学習材の活用には、教師のPCKが大きく影響する

### 新任教師と比べたベテラン教師の特質

生徒の理解や状態(生徒に関する知識)に合わせてながら、適切な教育内容知識を取捨選択できている



教師は「教育目標についての知識」を明確に持ち、  
多様な知識をpedagogicalに総合することで学問内  
容に応じた形に翻案できる 参考文献⑤より

学習材を活用する際の、ベテラン教師のPCKの影響は大きい

RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

## (2) 学習材の活用における 教師の「翻案」の重要性

モデル教科書「アフリカ」に関するアンケートより(参考文献⑦より)

社会科教師(志望学生)が独自に持つ教科観や指導法は多様である

➡ 社会科教師がもつPCKも多様

↓  
学習材の活用において、教師自身の「翻案」過程が重要

RQの設定

Shulmanの  
PCK研究の概要

PCK研究から  
学習材への示唆

## 学習材を教師が「翻案」するとは？

理解

教師自身が持つ社会科における教育目標及び内容の理解と、  
学習材に内在するものについての批判的な検討が必要

翻案

- ①**教材の準備**: 構造化・分節化された学習材(既成の教材)の批判的検討(生徒の誤った先行概念等を考慮)
- ②**表現**: 学習材の教育内容を、学習者が理解できるように表現を改変(身近な事例等)
- ③**選択**: 学習材の教授方法から、あるいは教師独自の教授方法を選択
- ④**適合**: 学習者の誤った先行概念(常識的な理解やつまずき)や能力等の特性を考慮し、教材(学習材)を合致させる
- ⑤**仕立て**: 学習者の実態に合わせて授業を計画

# 参考文献

- ①八田幸恵「リー・ショーマンにおける教師の知識と学習過程に関する理論の展開」『教育方法学研究』第35巻 2009 pp.71-81
- ②八田幸恵「リー・ショーマンのPCK概念に関する一考察―「教育学的推論と活動モデル」に依拠した改革プロジェクトの展開を通して―」『京都大学院教育学研究科紀要』54号 2008 pp.180-192
- ③八田幸恵「米国のPCK論と社会科教師教育研究」特別セミナー：社会科教育研究の方法論の国際化プロジェクト―80年代以降の米国社会科の動向と課題を学ぶ―於：広島大学 2011 発表レジュメ
- ④徳岡慶一「pedagogical content knowledgeの特質と意義」『教育方法学研究』21巻 1995 pp.67-75
- ⑤矢野博之「教師の教育内容知識に関する研究の動向―社会科を中心として―」『東京大学院教育学研究科紀要』第38巻 1998 pp.287-295
- ⑥吉崎静夫「授業研究と教師教育(1)―教師の知識研究を媒介として―」『教育方法学研究』第13巻 1997 pp.11-17